

Labor Migration, Urban Unemployment and Interlinkage

神戸大学大学院経済学研究科博士後期過程 高羅ひとみ

平成 20 年 4 月 23 日

概要

インドを初めとする発展途上国では、都市部で失業が増えているにもかかわらず、農村から都市への移動が続いている。一方で、農村部ではインターリンケージ（市場取引の連結）と呼ばれる制度が広く観察されている。通常、インターリンケージは信用取引を核に行われることが多い。そのとき「無利子」で地主が農業労働者に信用を供与することも少なくない。既存のモデルでは、都市失業均衡も存在し得ること、また農村部の労働と信用のインターリンケージにおいて、無利子貸付け（端点解）も地主にとって最適解となり得ることを示唆するにとどまり、その十分条件についてはあまり議論されていない。それまで、都市の失業の問題と農村でのインターリンケージは切り離して個別に議論されてきた。本稿では、農村でのインターリンケージ、都市での失業を含む一般均衡モデルを構築する。モデルは 2 期間、無数家計、1 企業、1 地主、2 財、2 生産要素の一般均衡モデルを用いる。労働者は 2 財に対し同じ選好をもつが、生産効率の点で異質である。本稿の主たる結論は、(i) [都市失業の存在] 市場均衡が存在すれば、必ず都市で失業が存在すること、(ii) [農村での無利子貸付] 労働者の選好がコブ・ダグラス型効用関数で表現され、生産効率が一様分布にしたがって分布している場合、地主が労働者との労働と信用のインターリンケージから得る利潤を最大にするような実質利子率は無利子（端点解）になること、である。

JEL classification: J64; Q12; O12

Keywords: Interlinkage; Labor Heterogeneity; Credit; Urban Unemployment; Labor Migration; General Equilibrium Model